

2013 年 6 月 15 日
リーダー会了承 (Email)

日和田 R C T 「犬竹浩晴」 負傷事故報告書

1. 日時、負傷場所 2010 年 4 月 25 日 (日) 晴 日和田グレンデ南面
2. 負傷の程度
右臀部打撲、全治 1 週間
3. 目的、メンバーと経験度 (事故発生時までの岩場の経験)
5 月 GW 槍ヶ岳合宿の事前トレーニングとして初心者である犬竹のためにアイゼントレを加藤が企画、山田がサポートとして参加。
加藤秀夫 (L) : 2007 年入会 (第 52 期) 初心者の域を出ない程度
山田眞敬 : 2008 年入会 (第 53 期) 岩トレ経験 1 年、今回は 13 回目の岩トレ
犬竹浩晴 : 2009 年入会 (第 54 期) R C T 1 回、アイゼントレ未経験
4. 本報告書作成前の措置と経緯
 - ・ 2010 年 4 月 26 日 : 役員及び槍ヶ岳合宿参加者にメールにて事故報告
 - ・ 2010 年 5 月 12 日 : 集会にて犬竹の負傷事故を報告。また、責任を形にするため①当面活動自粛、②会の SL 辞退、③保険会計担当の辞退、④都岳連岩場のセルフレスキュー講習会補助 13,000 円の返納、の自己制裁を課すことを表明し了解される。
5. 本報告書作成に至った経緯
 - ・ 2013 年 6 月 25 日 : 「岳人」から「遭難未済事例」について 2012 年 5 月 27 日に発生した源次郎沢での負傷事故を取材したいとの要請があったが、会として事故報告書未作成、事故レビューを行っていないなどを理由に断った。
 - ・ 上記の一連としてこれまでの事故についても「事故から学ぶ」趣旨から報告書を作成することとしたもの。
6. 事故発生時の行動
アイゼンを装着して登下降を数回行った後、槍ヶ岳合宿の事前トレとして懸垂下降をやっておいた方はよいのではないか、との山田の提起があり加藤が同意し加藤が懸垂下降の方法を指示した。
犬竹は山田リードのセカンドで南面正面壁中央ルートを最上部まで登り、山田が下降支点を設定して懸垂下降を開始した。最上部下降点から 2, 3 歩下ったところで右足が滑り (下から見て) 右に 5~6m 振られて凹壁状の右壁に身体をぶつけ、右臀部を打撲した。利き手の右手はしっかりと確保器より下に持っていたので落下を免れた。打撲後は下降ルートに戻り懸垂下降を続け終了した。

実際に懸垂下降を始める前、上部の岩場において、山田は確保器のセッティング、懸垂下降姿勢、利き手の位置、重要事項の確認などの試技を何度も繰り返し指導した。

7. 事故発生後の状況

事故後は終了し湿布を張り処方した。下山は加藤のストックを使い駅まで歩く。帰宅後痛みが激しいので緊急外来で診察を受け、打撲と診断された。翌日の 4/26 は出勤した。

8. 事故原因

- ・ 下降地点は垂壁に近く岩質は硬く滑りやすい上にアイゼンを履いた不安定な足元が原因で滑った。
- ・ 補助ザイルでバックアップを設定していなかった。
- ・ 雪や氷の状態を意識したためアイゼン装着での懸垂下降訓練を行ったが、初めての懸垂下降であったことを考えると無謀であった。

9. 防止策

- ・ 初心者のアイゼン装着での懸垂下降はやらない。
- ・ 初心者の懸垂下降を実施せざるを得ないような場合は、補助ザイルでバックアップを必ず設定する。

10. 今後の課題

- ・ アイゼントレ自体は必要であり、初心者に対する最初の段階は地面に足が届く程の低い場所での登り降り、あるいはトラバースを練習することが良いと考える。
- ・ 懸垂下降は最も危険な行動のひとつだと言われているので、普段から下降姿勢、加重方法、利き手の位置、下降器のセッティング、数種の下降器での練習、下降器がない場合の下降方法、バックアップシステム、など習得しておく必要がある。

以上



(以下参考)

事故報告に関する関係者のメール

Re: 犬竹さん打撲 Mon, 26 Apr 2010 12:08:53 +0900

犬竹様、槍ヶ岳山行メンバー・北稜役員各位

加藤です。

>犬竹様

本日 4/26、負傷に関する山岳保険適用を当面見合わせるとのご連絡ありがとうございます。1 か月以内に「事故報告書」を提出すれば通院保険金として 2,000/日が出ますのでいつでもご連絡ください。保険金請求額が 10 万円以内でしたら診断書に代えて診断状況申告書を提出すれば OK です。お大事になさってください。

槍ヶ岳山行については、犬竹さんは2、3 日様子を見させてほしいとのことでしたが、CL に相談しご連絡します。

>槍ヶ岳山行メンバー、北稜役員のみなさま

昨日 4/25、日和田 RC 練習において犬竹さんが負傷（打撲）しました。懸垂下降訓練を行うため、アイゼンを装着し山田さんリードのセカンドで正面壁中央ルートを最上部まで登り、懸垂下降を開始し、最上部下降点から2、3 歩下ったところで右足が滑り（下から見ても）右に振られて凹壁状の右壁に身体をぶつけ、右臀部を打撲したものです。利き手の右手はしっかりと確保器より下に持っていたので滑落を免れたのが幸いでした。打撲後は下降ルートに戻り懸垂下降を続け終了しました。

実際に懸垂下降を始める前、上部の岩場において、山田さんは確保器のセッティング、懸垂下降姿勢、利き手の位置、重要事項の確認などの試技を何度も繰り返し指導したことを申し添えます。

雪や氷の状態を意識したためアイゼン装着での懸垂下降訓練をしてしまいましたが、初めての懸垂下降であったことを考えると無謀なことをしたと深く反省しています。またまたリーダー失格事態を引き起こしてしまいました。

その後の状況は、下山を加藤のストックを使い駅まで歩きました。帰宅後痛みが激しいので緊急外来で診察を受け、打撲と診断されたようです。本日 4/26 は出勤しています。

>槍ヶ岳山行 CL 殿

以上のような状況が出来しましたので次の件を CL にご相談いたします。

1) 犬竹さん参加決定時期について

ご本人は、槍ヶ岳山行を2、3 日様子を見させてほしい、と言っていますので、4/28 日まで待てますでしょうか。

また、食事、共同装備・分担などのこともありますので、参加メンバーのご意見もいただきたいと思います。

2) SL について

先般のメールで CL から加藤が SL をとのご連絡をいただきましたが、今回の件のように重大事故につながる失態があり、不適だと思えます。まだまだ状況判断が甘いと痛感してい

ます。他の方をご指名いただければ有り難いです。
以上よろしく申し上げます。

(Nさんメール)

Re: 犬竹さん打撲 Mon, 26 Apr 2010 12:44:44 +0900

加藤さま

cc.山田さま、犬竹さま

こんにちは、Nです。昨日のアイゼントレ、おつかれさまでした。

犬竹さん、怪我の具合はいかがですか？ひどく痛んだりしていなければよいのですが。

槍ヶ岳は、どうぞご無理をなさらず（ご一緒できたら楽しいし、うれしいのですが）、慎重に判断をし、様子を見てください。装備の分担などは、直前でもある程度なんとかなるはずです。

加藤さん、山田さん

加藤さんからのレポートを拝見し、起こったことが事実と考えたうえで、あえて厳しいことを言わせていただきます。

アイゼンで懸垂下降をされたようですが、犬竹さんが、岩登りの経験が一度しかなく、ほぼ初心者であることを理解したうえで、トレーニングをされていたか？おふたりとも初心者だったときのことを思い出してみてください。フラットソールでの懸垂下降でさえ、下るときは足元がおぼつかなかったと思います。

事前に懸垂の手順を確認したどうか、という問題ではありませんよね。そもそも、懸垂下降に慣れていない人に、なぜ足元が不安定なアイゼンで懸垂下降の練習などさせるのか。リーダーが指示をしたとして、なぜサブリーダーはそれに異を唱えなかったのか。

岩場では、懸垂下降での事故も非常に多く報告されています。岩に慣れてくると、難しいという感覚はなくなっていくかもしれませんが、そもそも非常に危険を伴うものです。

事故の状況を見るに、体を振られたときに右手を離して滑落してもおかしくなかったでしょうし、うちどころが悪ければ頭を打ってしまったり、足の置き方が悪ければ逆さまになってしまうこともあったかもしれません。

今回の件で、犬竹さんはご自身がうまくできなかったことが原因と考える必要は全くありません。

初めてのもの、慣れないものがうまくできないのは当たり前なのです。アイゼンで懸垂下降をするなどということは、私だって上手にできないですし、そんな冬季登攀のルートに行ったことはありません。

加藤さん、山田さんにとっては、岩場での安全確保に関して、改めて考える、よいきっかけになると思います。というか、なってほしいです。これからも、会で岩登りを楽しんでいくために、二度と同じような事故を起こさないように、よく考えたいと思います。

(Sさんメール)

Re: 犬竹さん打撲 Mon, 26 Apr 2010 16:21:09 +0900

加藤様 各位

リーダーご苦労様です。アイゼンを装着しての懸垂は、経験者でも岩の壁では良くスリッ
プし振られてしまいます。これも訓練の目的の一つです。良い経験が出来て良かったです
ね。軽い打ち身のように、2～3日で痛みも消えるでしょう。合宿参加は問題ないと思い
ます。

私の経験で、一ノ倉の滝沢第一スラブでトップのTちゃんが滑落し、運良く止まったもの
の、けつっぺたが痛いというのを聞こえない振りをして登り続け、最後のドーム壁の人工
登攀もこなして下山した事があります。私は今回の事は岩登りの中での日常的なマイナー
な出来事と捉えています、さて会の運営に携わっている人達は如何判断されるのでしょ
うか？

勿論、この2年半私が企画した各合宿に参加し信頼できるまで成長した加藤さんを、リー
ダー養成もこの合宿の目的の一つである槍ヶ岳春山合宿の SL から変更する積りはさらさ
らありません。

(犬竹さんメール)

Re: 槍ヶ岳 Wed, 28 Apr 2010 16:31:30 +0900

加藤様

犬竹です。先ほどは電話に出られず、失礼しました。ケガの具合は徐々に回復に向かって
おりますので、槍ヶ岳は今のところ予定通り参加できると思います。ご心配をおかけして
大変申し訳ありませんでしたが、なにとぞよろしくお願いいたします。

以上完